

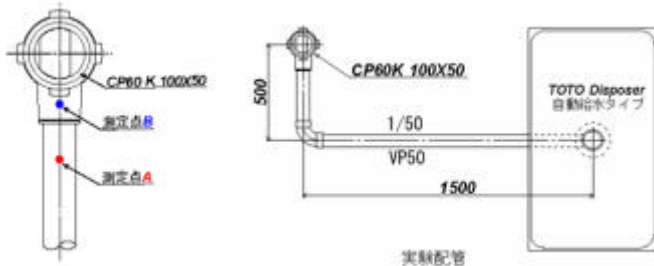
ディスポーザ排水

ワンタッチパッキンで振動吸収

生ごみ処理方法の利便性やごみ減量への対応策の一つとして、集合住宅でもディスポーザの設置が増えています。ディスポーザ排水はその流下状況が他の生活排水と異なることに加え、ディスポーザ作動時の騒音・振動対策も課題となります。台所流し全体が騒音・振動の発生源となっており、配管や建築構造体を介して他住戸へ伝播すると考えられますので、適切な防振措置が求められています。排水横枝管と排水立て管との接合方法の違いにより、振動がどれくらい伝播していくのか比較検証いたしましたので、その一部を報告します。

実験条件

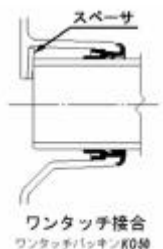
当社実験タワー 3 F に東陶機器（株）製自動給水タイプ（給水量：10.0[L/min]、給水時間：60[s]）のディスポーザを設置し、ディスポーザ排水時における排水横枝管上（測定点 A）と立て管継手受け口上（測定点 B）での振動加速度を測定した。配管は図に示すとおり水平曲がり設け、排水横枝管は VP50、こう配を 1/50 とした。供試継手は接合方法の異なる次の 3 タイプ。接着接合 フランジ接合 ワンタッチ接合



実験結果

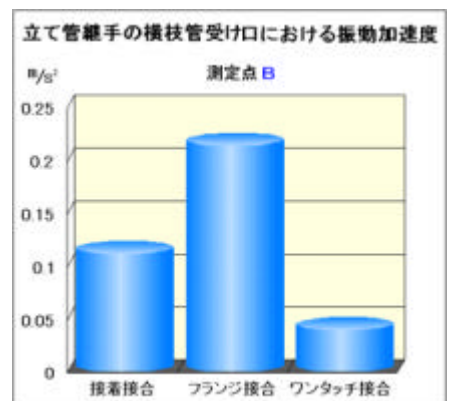
排水負荷：ディスポーザ自動給水 標準生ごみ 1台
投入した生ごみは、財団法人日本建築センター（1999年9月1日発行）「ディスポーザによる生ごみリサイクルシステムの開発」に示されている標準生ごみ。

	測定点 A	測定点 B		
		接着接合	フランジ接合	ワンタッチ接合
振動加速度	0.487 [m/s ²]	0.112 [m/s ²]	0.214 [m/s ²]	0.040 [m/s ²]



- 注：1. 当社実験タワーは鉄骨造のため、正しくはその影響を加味しなければならないが、本実験では振動特性の傾向を把握することを目的とした。
2. 各タイプの立て管継手は標準的な接合の配管とした。
3. 測定器は次の通り
・振動ピックアップ PV-86 (株)リオン製
・振動計 VM-80 (株)リオン製

立て管継手受け口上（測定点 B）の振動加速度は、ワンタッチ接合の場合が最も減衰している。これはワンタッチパッキン K050 が排水横枝管を包むような形で、立て管継手と絶縁しているためと推測されます。



関連リンク

ワンタッチパッキン 伸縮吸収部 / マクラ部は、こちら
新コンセプト K S T / 騒音レベル・振動加速度測定データは、こちら
ディスポーザ排水と KST は、こちら
・ディスポーザ排水の流下状況が **動画** でご覧いただけます。



そうじ し～な パンフレット発行！

（維持管理対策等級等級 3 に応える）

立て管継手に掃除口を併設したそうじ し～なは、ディスポーザ排水に最適です。